

早実 3F Memorial Book

杉先生徳川嘗受賞・喜寿お祝い & 早実3F卒業40周年記念
2011.10.29 クラス会



徳川嘗受賞記念 特別寄稿 杉 仁

あなたの隣の一茶たち

— 在村文化とは、在村俳人とは —

昭和46年卒・3F記念ブック制作委員会

早実 3F Memorial Book

杉先生徳川賞受賞・喜寿お祝い & 早実3F卒業40周年記念号

2011.10.29 3Fクラス会にて
(46年卒)

杉先生

喜寿

おめでとうございます!!

先生、多摩文化への
講演は休憩もはこんで
大奮闘よく南かして
いって下さいます。
ニハカも入る気で
こは張る!! 梅原

クラス会 喜寿の祝い
神有月
おめでとう
御活躍下マッ 馬波

先生これから益々元気で
今日まで、先生と私の母が
2才が「いと」は気が付かずに
ていた。大澤祐太郎

毎日元気な顔見せて
強しことたりしに
いいおち 豊永

先生も私達も年を取って来た
が、お元気。40年前と
変わらない!! これからますます
この会を続けたいです (馬山)

今後も、ご自分の楽しめる事を

たくさんなさって下さい。
おめでとうございます。永下

最初の授業は今でも覚えている。早稲田昌季、沖安祥介。
答を教える。結果を出している課程が面白く、117も思っている。



杉先生

お久しぶりで、おめでとう感があります。

昔と全く変わりありません。

御自身の研究にこれからも邁進下さい。

また来年お祝い申し上げます。

大勢の先生(お祝い)が
おめでとうの言葉を
おっしゃるの、おかげで
先生、おめでとうござい
ます。大器晩成のお話。多摩に
話しますね。山田みゆき
先生も元気でなにより
です。私も、先生から
元気にいいます。山田雅希

みなさんの元気な顔が
毎年わたって木下

徳川賞、おめでとうございます!
ますますのご活躍を期待しています!
娘僕と御世はありました。杉君
御元気で御活躍して下さい。
角田

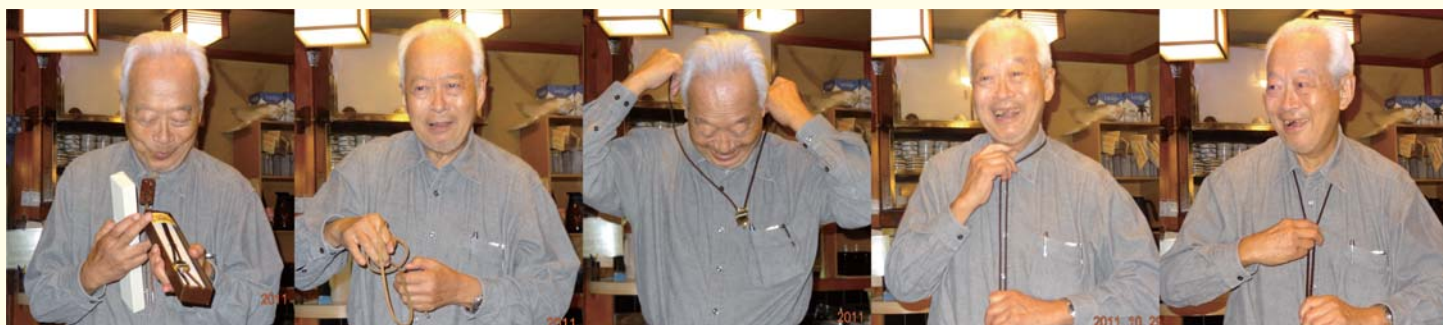
2011.10.29

卒業して40年。あの日は
今でも…。これが もう一歩
前へ、大きな足跡を残して
ほしい。野島輝昭

右利文化に興味関心
をもって接する事が出来れば
嬉しいこと。大橋に実



光陰矢の如し



しゅれこうべの歌

イタリア シチリア民謡
日本語詞：東大音感合唱研究会編

1) たい ほ う の う え に しゅれ こ う べ が
2) あ め に う た れ か ぜ に さ ら さ れ た
3) は る が き て も な つ が す ぎ て も

う つ ろ な め を ひ ら い て い た
そ だ れ も は な を に ら ん で い た
な れ な を た む け て く れ ぬ

しゅ れ こ う べ が ラ ラ ラ い う こ と にや
しゅ れ こ う べ が ラ ラ ラ い う こ と にや
しゅ れ こ う べ が ラ ラ ラ い う こ と にや

か お ね の お と も き か し し ん だ
お ふ と の あ い も あ わ し し ん だ
ひ と の あ い も し ら し し ん だ

しゅれこうべの歌 (しゅれこうべと大砲) :

イタリア・シチリア民謡。この歌は、1950年のイタリア映画「越境者」の主題歌として使われました。「越境者」は、工場閉鎖で大量に失業したシチリアの労働者たちが、職を得るために、さまざまな困難に会いながらも助け合い、長いイタリア半島を縦断してスイスに越境していくという物語です。日本では、昭和20～30年代、反戦歌の一つとして歌われました。

この歌は杉先生の愛唱歌であり、いろいろなイベントで歌ってこられました。世代を越えたリクエストがあるということです。今回のクラス会でもギター伴奏付きでみんなで歌いました。先生は相変わらず楽器みたいないい声でした。因みに先生には頑固な「絶対音感」があり、この歌はBメジャー (口長調) で歌われました。半音違っても違和感があるそうです。

CONTENTS

あなたの隣の一茶たち

— 在村文化とは、在村俳人とは — 杉先生 —	4
2011.10.29 早実 3F クラス会アルバム	8
杉先生メッセージ (3F三敬新聞最終号より)	12

ESSAY (3F一同)	14
近況 (クラス会案内返信ハガキより)	21
Time machine	22
3F Address LIST	23

第八回「徳川賞」を受賞された杉先生の

『近世の在村文化と書物出版』を

わかりやすく解説していただきました。

あなたの隣の「茶」たち

—— 在村文化とは、在村俳人とは ——

杉 仁



発行：吉川弘文館



「江戸文化」意外史、 農山漁村でもさかん

この冊子は、近世江戸時代の農山漁村の文化を、村の俳人「在村俳人」たちを中心にみたものです。あなたが今住んでいるお隣にも、一茶のような俳人がいたかも知れません。
農山漁村に「文化」があったのか……。そう思う人は少なくないはずですが、しかし、「文化」をどうみるかによって、話は大きく変わります。

「文化」とは

そもそも「文化」とは何でしょう。多くの人々がいろいろ述べていますが、むずかしい議論がほとんどです。
私の師事した「西岡虎之助」*先生は、

人びとが生きているありのままの姿をもとに、わかりやすい言葉でこう述べています。

「人間が生きて行くためには多少の努力がともなうものであるが、その現れが文化であり、したがって文化史は人間の努力の過程といえる」……。

人間の努力のあらわれが、「文化」というのです。

*和歌山県生まれ、一八九五～一九七〇年。
荘園史・民衆史・女性史などの先駆者として活躍されました。この文章は、一九三八年（昭和十三年）の「日本女性文化史研究発表会開会の辞（於日本女子大学）」で、女性も努力しているから〈女性文化史〉がある……、という画期的な発言です（『著作集』第四巻所収。三一書房一九七八年）。のち『日本女性史考』も刊行しています。

人はだれでも、よりよい事（おこない）、よりよい物（つくりだしたもの）を求め、それぞれなりに努力して生きています。人はすべて、「文化」をつくり出して生きているのです。

人はだれでも、赤ん坊でも、這いだし、歩きだし、おしゃべりします……。すべて一生懸命、努力してなした「文化」です。育児も、赤ん坊の文化努力をたすける「文化」です。障害ある方の努力は、最高の「文化」といえます。

人だれでも「文化」をつくりだしているとするれば、これまで「文化」とは縁がないと思われた人びと、とりわけ農山漁村の人びとは、どうなるのでしょうか。

じつは農山漁村（在村）にも、ゆたかな文化がありました。だれも目をつ



徳川賞とは：
公益財団法人徳川記念財団が制定している名誉ある賞。日本近世に関する研究を積極的に奨励し支援する目的で設定され、特に優れた研究書に対して贈られる。審査がきびしく、該当なしの年もある。

農山漁村でも「文化」はさかん

まず、農業や蚕業や山林業や漁業の「生産活動」そのものが、「文化」です。よりよいものを、よりたくみに、より工夫して作りだす……。よりよい価値をもとめて努力する生産活動は、立派な「文化」です。「生産文化」と名づけました。

生産の工夫を書きとめ、人びとに広めようとする技術書「農書」や「蚕書」があります。生産と生命をさまたげる



災害や飢饉の記録、大勢が命をかけて立ち上がる一揆の記録…。地域の歴史や地理をまとめた「地誌」もあります。



出版されたものも少なくありません。

家事や育児も、よりおいしく、

より健やかに、よりよい価値をもとめて努力する、立派な「文化」です。「生活文化」と名づけています（挿絵は破魔矢をもたせ子を慈しむ俳人）。

そのころ、「文化」という言葉はありません（元号にはありますが）。とくに学術や芸術など、今でいう「文化」は、風雅、風流、好事、好学、などとよびました。あわせて「風雅文化」と呼ぶことにしています。



人数の多い順に、俳諧（俳句）、書画、

茶道、花道（挿絵は活花にみとれる女流俳人桐生綾女）が最下層、さらには狂歌や俳諧師匠が中層で、最上層は和歌や漢詩文です。学問や教育は、庶民の「読み書きそろばん」から、中国輸入で学者たちの「儒学」まであります。

近世江戸初期、武家や町人の「都市文化」にはじまり、まもなく農山漁村の在村へひろがりました。

こうした農山漁村の文化活動、「生産文化」と「生活文化」に「風雅文化」をあわせたものを、「在村文化」と名づけ、とくに風雅文化で活動する村の文化人を、「在村文人」と呼んできました。

「在村文人」は村民の上層で、全村民の1割10%くらい。名主や庄屋や組頭など、代々村役につき、たくわえた富で商工業もいとなむ、村役豪農商たちです。

専業の文化人ではありません。村役と生業と風雅を一身に担って奮闘する、「業雅一体」の活動でした。

村役豪農商層は、年貢の立替えなどによる金融業、地域産物の仲買業、小作米や買入れ米による醸造業など、商工業をかねて大きな富をあつめ、富豪になります。格式

張って贅沢し、家計にゆきづまる大名や武家にも金を貸し、利子をかせぎます。これらの富が文化活動の財源にもなりました。

文化の世界は身分上下なし

俳諧や狂歌、和歌や茶道は、仲間と座を組み、句会や歌会や茶会を開いて技を磨き合います。風雅文化に、交流はつきものでした。「座の文化」、「交流する文化」といえます。

農山漁村でも風雅交流はさかんでしたが、交流の仕方に特徴があります。一言すれば、身分上下は問わない、「対等な交流」です。

村役や生業は、表の公的な「実名」（農民なら年貢負担者名）でおこない、身分上下を重んじますが、風雅は、裏の私的な「雅号」でおこない、身分上下を問いません。作品の善し悪しは実力次第、身分や性別や年令をこえ、対等に評価されます（評価のときは無記名がきまりです）。

私的な風雅交流の文化世界は、一種対等の世界だったのです（社会では格差は大きく平等ではない「対等」）。茶道では、武家も茶室（風雅世界）に入るときは、身を守り身分をしめす刀剣は手放し、所定の棚に収めねばなりません。ほとんど乞食あつかいの俳諧師も、身分の高い大名や武士の句会にまねかれて同席します。

俳諧師の多くは、句作と俳諧の指導のみで生きています。小林一茶のように貧しく、パトロン門人の豪農商文人たちの援助で生きざるをえません。乞食同然とみなされていました。そうだからこそよい句がで

きるとして、あえて乞食たるうとしたのが「松尾芭蕉（初号「桃青」ですが、磐城平藩の第六代藩主「内藤義英」俳号「露沾」の江戸屋敷の句会で、しばしば同席していた事実は有名です）。

もちろん、「男女差」、「年令差」、「職業差」もあります。ただし、俳号□□の村名肩書■に、「女」「遊女」「盲人」、あるいは「少年」などをつけて、区別はしています。「■女□□」、「■遊女□□」のようにです。

「加賀千代女」や「下総大穴園女」（船橋市大穴、挿絵は八十歳記念集の雀とたわむれる園女のように、雅号に「女」や「尼」（夫や師の没後に剃髪すると「尼」をつけるものもいました）。



句の善し悪しの評価に男女差がないことは、最初に紹介する女流俳人「八王子星布」が

よい例です。関東西半分の地域では、俳諧宗匠のトップでした。

八〇歳記念句集『春山集』（二八四文化八年刊）の入選者は、多摩郡から武州（東京埼玉）、相州（神奈川）、甲州（山梨）にかけてひろがる、大勢の門人たちでした。

女流でも、これだけひろい地域から門人があつまつたのは、男女差を問わない風雅文化ゆえのことです。

在村文化では、裏の私的な風雅世界でつちかわれた信用、いわば「風雅信用」が表裏一体、表の公的世界の村役や商いなど、「生業信用」をささえました。

風雅文化を身につけた方が、村役や商いなど、生業をうまくやるのに有利だったのです。「風雅の交流」は、「信用の交流」でもあったのです。

生業と風雅が一体、「業雅一体」だからこそ、在村文化は、村役のいるところすべて、商いがおよぶところすべて、「山の奥々津々浦々」までひろまっています。

雅号には地名肩書をつけますが、在村では、地域内ですぐわかる村名肩書になります。「八王子星布」「高崎一紅」のようにです。交流は、おおむね地域内にとどまりますが、商いの流通路によつては、信州と奥州、武州と越後、上州と能登輪島など、思わぬ遠くとむ



在村文化の交流は、村から村へ、地域から地域へ、網目状につながりながら、「山の奥々津々浦々」まで、海のように一面にひろがっていたのです。

「山の奥々津々浦々」まで

【図1】は、近世中後期の多摩郡でみつけた在村俳人の村名肩書と俳号の人数分布です。右端に「高井戸」、中央寄りに「府中」、やや左寄りに「八王子」、左上隅に「青梅」がみえます。多摩郡ほとんどの村に、在村俳人がいたことがわかります。

【図2】は、新潟県堀之内村大神宮の「奉額句合」六点の分布図です。左図は、塩沢村の『十評発句合』の分布図で、魚沼郡全体にひろがりますが、右図は、そのなかの一地域をくわしくみたものです。途切れたときは会津まで、「六十里越え」の山ばかりです。「山の奥々」まで、在村俳人がいたことがわかります。

多摩郡のほとんどの村に
在村俳人がいたことがわかります。

杉 仁『近世の地域と在村文化』吉川弘文館（2001年）より

図2 「浦佐多聞天法奉額 十評発句合」入選俳人分布(村名と俳号数)／「堀之内村大神宮奉額句合」(7点)の入選俳人分布(村名)

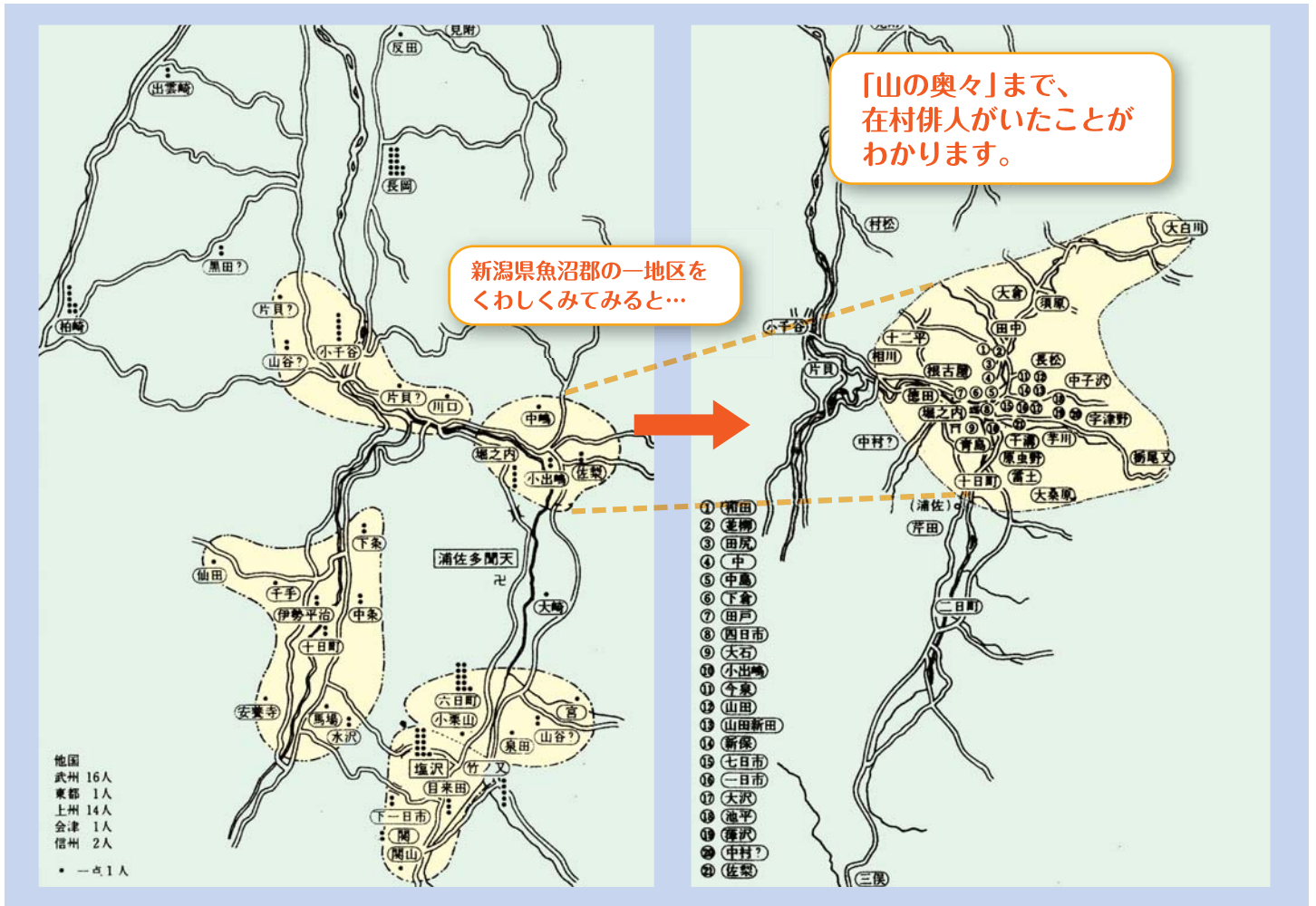


図3 房総『杉間集』俳人分布



【図3】は、房総の夷隅郡鴨根村(いま岬町)、「清水寺」の芭蕉句碑「杉間集」の建立記念句集『杉間集』の参加者の房総分布図です(江戸までひろがるが人数は省略)。湊や小さな漁村もふくめ、「津々浦々」までひろがっているようすがわかります(拙著二〇〇一・二〇〇九より)。

このように、江戸時代に成熟した近世文化は、「都市文化」と「在村文化」の二つから成り立っていました。江戸文化の高いレベルは、「都市文人」と「在村文人」双方が支えあっていたのです。

千葉県船橋市三咲に住んでいる私の友人は、「散歩する近所に在村俳人の墓があった…市指定の文化財になっている…」といっていました。さきの

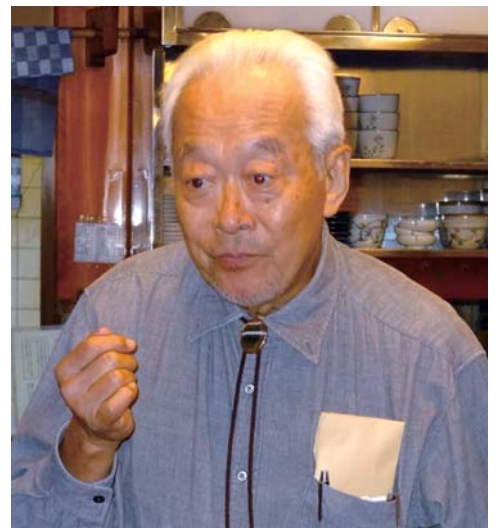


「下総大穴園女」の墓のことです。全国どこにでも、「あなたの隣の一茶たち」がいたのです。

以下、「在村文化」と「在村文人」、とくに、「在村俳人」の活動を、くわしく見ていきます。(以下省略)

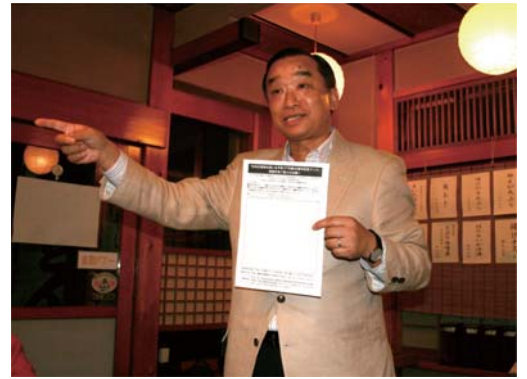
在村文人と思われる墓(静岡県富士市)「白雲軒雁行之墓」と刻まれている

杉間集：制作年代は文政9年(1826)で、芭蕉翁碑建立記念集として上梓された。









早実 3F
Memorial Book

2012.3

昭和46年卒・
3F記念ブック制作委員会